

青年の世界-早稲田大学

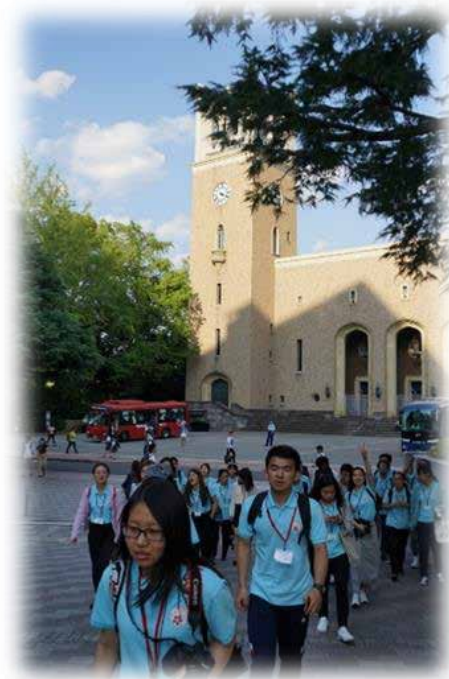
清華大学学生代表

見学日時：2018年6月4日（月）16:30-19:45

見学場所：早稲田大学

見学概要

私たちはバスで、これまで多くの企業家や政治家を輩出してきた世に名高い著名学府を訪れた。まず目に入ったのは巨大な時計塔で、澄み切った青空とマッチしたその雄大な姿を私たちはこぞって写真に収めた。



訪日団一行の早稲田大学到着の様子

私たちが到着した時間は丁度講義終了の時間であったため、キャンパス内では楽しそうに歩く沢山の学生の姿を見かけた。彼らの表情はとても若々しく、見た目も京都大学の学生よりおしゃれであった。外の喧騒の中、私たちはとある講義棟に足を踏み入れた。建物の中はキャンパス内ほどざわざわとはしておらず、学生らは静かにしていた。私たちは引率の方について移動をし、途中セブンイレブンを通りかかると、その瞬間中国の大学キャンパスにいるような感覚がした。その後私たちは交流活動用の大教室に足を踏み入れた。そこではすでに早稲田大学の学生らが楽しそうにおしゃべりしながら私たちの到着を待っていた。その様子に彼らはとても活発で明るい人たちだと思った。

その後、白髪温顔の教授が交流会の司会を務め、私たちは英語と日本語に分かれて早稲田大学の学生とグループを作り、皆は簡単な自己紹介の後、楽しい交流を行った。

最初の討論テーマは卒業後に何をするかであった。討論において、私たちは早稲田大学の専門課程は通常「自然科学」と「社会科学」に分かれ、前者には中国で言うところの理科、そして工科が含まれ、後者には文科そして商科が含まれることを知った。また中国の学生と似ていて、一般的に自然科学を専攻する学生は、卒業後その多くが研究を続けるため修士もしくは博士課程に進み、社会科学を専攻する学生は、卒業後その多くが就職により経験を積む。

今回の交流に参加した早稲田大学の学生は政治経済を専攻していることから、理工系の私たちは自分たちと同じジャンルを学ぶ学生と接することはできなかったが、交流を通じて間接的に彼らの将来的ビジョンを知ることができた。その他私たちはインターンシップについても話し合い、その結果大学における採用活動やインターンシップ検索アプリ等を利用するなど両国共状況がとても似ていた。また同じグループのある早稲田大学の学生はすでにブルームバークからの内定をもらっており、今年後半から仕事を始めるとのことで、非常に優秀な学生であった。その後各グループはそれぞれの交流の成果を発表したが、ここではその内容は割愛する。



活発な討論の様子

二つめの討論テーマは大学における課外活動であった。私たち中国側の学生は自らの公益、スポーツ、ボランティア、文芸、科学面での活動を紹介した。実際のところ早稲田大学と中国の大学の違いはさほどなかったが、それでも異なる部分としては、早稲田大学の野球のレベルはとても高く、早稲田大学だけで3チームが存在するなど野球部は早稲田大学の中でも最大規模を誇っている。一方中国では野球は新しいスポーツという認識である。その後の各グループからの成果の発表では、朱宸賢さんが歌を、早稲田大学の学生がダンスを披露した。また孫震さんによるフリースタイルのスピーチも会場の皆や司会を務めた先生から好評であった。



代表者による発表の様子



学生代表と王団長によるスピーチの様子

交流会終了後、私たちは徒歩で大学近くのとあるレストランに向かい、そこでの懇親会に参加した。懇親会ではまず日中双方の代表者からの挨拶があり、王占起団長による「若者の友情」に関するスピーチは会場の皆から大きな拍手を受けた。その後日本側の代表者が懇親会開催を宣言し、皆は乾杯の後自由に楽しい交流を行った。この時の話題は先程までの討論会の話題に限らず、自由気ままな若者同士の会話であった。また日本側の学生の中に一名韓国人留学生がいたことは早稲田大学の国際化度合を示すものであった。しかしながら、多くの日本人学生の英会話能力はさほど高くないことに私たちは気が付いた。その理由としては、高校や大学では筆記を重視しているため英語を実際に話す機会がほとんどないことから、自分たちの発音に自信が持てず発音もはっきりしないとのことであった。だがこうした現状は中国のそれと非常に似ているものである。もちろん一部の早稲田大学の学生は英語がとても流暢で、さほど流暢ではない学生でもジェスチャーを交えることで問題なく交流することができた。最後に私たちは名残惜しくも互いの連絡先を交換しお別れをした。今回は他人同士が偶然知り合った形だが、今後再会することもあるかもしれない。

なぜですか？

問：早稲田大学は企業家や政治家を多く輩出していることで有名だが、具体的にはどういった人物がいるのか？

政界：陳独秀や李大釗等中国共産党創始者及び初期の指導者、宋教仁や廖仲愷等中国国民党創始者及び指導者、野田佳彦等七名の日本国総理大臣。

実業界：ソニー、カシオ、サムスン、東芝、ロッテ、任天堂、ユニクロ等著名企業の創業者。

この他、村上春樹や羽生結弦といった中国人になじみ深い日本の著名人もかつて、そして今も早稲田大学で学んでいる。

問：日本には中国同様大学入試センター試験があるのを知っていますか？

答：日本の大学入試試験は2回に分けられる。最初は1月中旬の週末に行われる大学入試センター試験で、試験教科は国語、外国語、数学、理科(物理・化学・生物・地学)、地理歴史、公民となっている。センター試験は受験における最初の関門であり、ほとんどの受験生にとって極めて重要なものである。

センター試験の結果が出た後、受験生は2月に申請した大学が独自に行う二次試験に参加をする。大学毎に二次試験の日程が異なるため、受験生は複数の大学を併願することができる。

感想

早稲田大学の学生と交流をして最も印象深かったのは、京都大学の学生よりも社交的ということであった。もちろんこうした点は各学生の専攻や年齢とも関係しているであろうが、私は両大学それぞれの学風による影響もあると思う。個人的には京都大学はより自由な傾向にあるため学生も気ままだが、早稲田大学は実業界や政界の人材育成に重きを置くことからリーダーシップの育成が必要で、学生も社交性やコミュニケーション能力が求められているのだと思う。長期間自身の学校の環境のみに身を置くと周囲の状況が分からなくなりがちだが、実際に校風という影響も確かに存在すると思う。その他には、日中両国の学生には沢山の類似点があることが分かった。例えば英語に関する日中同様の筆記を重んじる問題点、また就職と進学の間での葛藤など、それらの類似度合は相違の度合よりもはるかに大きい。そのため、両国の青年が交流や理解を深めることでのみ、偏見をなくし、結果として両国の友好を実現できるのである。